

第 24 回日本東洋医学会  
関東甲信越支部 山梨県部会

---

【日時】 令和元年 9 月 7 日(土) 15 時から 19 時まで

【場所】 山梨大学医学部研究棟 6 階 大会議室

【会費】 3000 円（当日払い、学生は無料）

山梨県部会 会長 中田薫

第 24 回日本東洋医学会関東甲信越支部山梨県部会

事務局：甲府共立病院 鶴田統子

055-226-3131

# 漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、  
その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、  
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、  
生きる力を引き出すことを目的とした  
漢方にとって、

「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、  
すべての人が受け取れる形にして届けたい。  
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた  
私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



[www.tsumura.co.jp](http://www.tsumura.co.jp)

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

〔医療関係者の皆様〕 0120-329-970 〔患者様・一般のお客様〕 0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

# 第 24 回 日本東洋医学会関東甲信越支部 山梨県部会学術総会

---

## 15:00 受賞記念講演 「校正方輿輓の解説」

座長 中田薫 中田医院中国医学研究所 院長

講師 菅原健 健友堂クリニック 院長

## 16:15 総会

## 16:30 一般演題 10 演題(予定) 発表 6 分 質疑 3 分

座長 浅野伸将 / 鶴田統子

1. 妊娠後期における食欲不振と倦怠感が鍼灸治療で改善した 1 例 保坂明宏 なごみうさぎ
2. 繰り返す血尿と脳梗塞後遺症の認知症周辺症状 (BPSD) に加味帰脾湯が効果的だった症例  
賀村仁美 北杜市立辺見診療所
3. 虫垂癌化学療法後の嘔気、ホットフラッシュ等に六君子湯合抑肝散が著効した 1 症例  
縄田昌子 山梨県立中央病院
4. 単コードツボ探索器 渡邊裕 廣瀬医院
5. 四順丸の作成と皮膚疾患に対する効果 杉野二三 アトム薬局大里店
6. 夜間せき込み嘔吐を伴う急性の欬嗽に二陳湯合平胃散が効果的であった 1 例  
鶴田統子 甲府共立病院
7. 顔面神経麻痺に対し温経湯が有効と考えられた症例 浅野伸将 山梨大学麻酔科
8. 補中益気湯の使用例 宗岡雅子 あきる台病院
9. 鹿茸・紅参配合剤の服用により腎機能が急速に改善した 1 症例 輿水秀之 ナオル薬品
10. 術直後よりの全身の強い冷えに柴胡桂枝乾姜湯が著効した 1 症例  
渡邊 善一郎 富士ニコニコクリニック
11. 鼻炎本治途中に六味丸投与で便秘が改善した 1 例 中田薫 中田医院

## 18:00 休憩

## 18:10 特別講演 「漢方診療スキルアップのテクニック」

座長 土地邦彦 DPC 玉穂ふれあい診療所 院長

講師 花輪壽彦 北里大学

特別講演（スポンサーセミナー）

## 漢方診療スキルアップのテクニック

花輪 壽彦（北里大学東洋医学総合研究所 名誉所長）

- ①漢方医の覚悟：漢方の専門医をめざすものは「覚悟」が必要である。  
尾台椿堂先生の覚悟「古方・湯剤へのゆるぎない拘り」（『方伎雑誌』より）  
山田業精先生の覚悟「上工の術は面白からずして、却て深みあり」（『井見集・ 附録』より）  
北里・東医研歴代所長の覚悟。「徹底・不惑・寛容」
- ②良品：生薬の良品を選品し、剤型・修治・煎じ方にも拘る。良品を少量から使う習慣を。  
必要ない患者には使わない。
- ③処方学：処方の中での生薬の薬能を充分理解し、処方の「守備範囲」と「応用」を理解する。無闇に加味しない。
- ④四診に現れる漢方医の実力1上手な問診や腹診などによって、自然に「愁訴」に適応する「処方」がみえてくるようであればならない。必要なら「背診」もおこなう。
- ⑤「欲求南風、須開北傭」～三焦を調節する～  
頭痛、肩こり、のぼせ、喘息など上焦の症状を治すのに八味丸、頭痛に大承気湯、遺尿に甘草乾姜湯、小柴胡湯で中焦を和す、など三焦を調節する技術をマスターする。
- ⑥補剤と瀉剤：補剤と瀉剤を適切に使う。陰陽虚実は多くは「錯綜」している。例えば、口渇、多飲・多尿、多汗、煩熱に茯苓四逆湯を出すこともある。華奢な体型でも胸脇苦満ががっちりあれば大柴胡湯を出すこともある。臨機応変が大切である。
- ⑦「臨卷了然。臨床茫然」：書物を読む時はすらすらと了解できる。しかし臨床の実際になると茫然としてどうしてよいか分からなくなることが多い。臨床の研鑽に涯（はて）はない。技術には完成はない。治療原則や処方の運用の基本に立ち返りながらも、こだわり、自家薬籠とする努力を惜しまない。50処方程度を自家薬籠のものにする。優秀処方に徹底して、惑わない。

講師ご紹介 花輪 壽彦(はなわ としひこ)先生 北里大学 名誉教授 北里大学東洋医学総合研究所 名誉所長

1953年 山梨県生まれ

1980年 浜松医科大学卒業 同第一内科研修医

1982年 北里研究所東洋医学総合研究所 第二代所長・矢数道明、第三代所長・大塚恭男の両氏に師事

1989年 医学博士

1996年 同研究所第四代所長に就任

2001年 北里大学大学院医療系研究科・東洋医学指導教授を兼務

2014年 北里大学医学部医学教育研究開発センター東洋医学教育研究部門 教授

同大学大学院医療系研究科臨床医科学群東洋医学 教授

日本東洋医学会理事、和漢医薬学会理事、東亜医学協会理事長などを歴任

2018年より現職 2019年 第70回日本東洋医学会学術総会会頭

漢方医学を研修医にも西洋医にも患者にもわかりやすく伝え続けている

代表的著作は『漢方診療のレッスン 増補版』金原出版、『漢方処方ハンドブック』医学書院(2019)

東洋医学会奨励賞受賞記念講演

## 校正方輿輓の解説

菅原健 健友堂クリニック院長

以前師の織部と共にたにぐち書店から出版した「有持桂里方輿輓解説」は、有持桂里の私塾、毓春園の門人である八谷子良が有持桂里が私塾で教えていた内容を事細かに筆記した写本である、方輿輓について解説したものである。この方輿輓は一般には出回っていないはずのものであるが、有持桂里は後に七十歳を超えてから文政十一年に「校正方輿輓」という全十五巻の書物を正式に出版している。その時既に八谷子良は亡くなっており、この校正方輿輓は有持桂里本人の手によって書かれたものである。それだけに、完成度は非常に高く、文章もよく練られているのであるが、難しい言い回しや、引用も多く、却って現代人には全てを理解しにくくなっている。

今回の講演では、その「校正方輿輓」について時間が許す限り解説して行きたい。きっと明日から処方  
の使い方がより上手になると期待する。

「此書初編四巻曩に既に刻して流布す。二篇より四篇に至りては写本にて是亦世に多く見る所なり。然れども固より未校正にして且展轉寫誤最多く、實に用ふるに所不堪なり。今茲先生家の校正善本を乞て刻之普く世に弘む。故に此本を以て正本とすべし。冀くは四方醫學の諸賢これを脳知し玉はん事を。」

今回解説するのは、妊娠諸疾です。

講師ご紹介 菅原 健(すがわら たけし)先生 健友堂クリニック 院長 山梨県部会 副会長

1997年 山梨大学医学部卒業 麻酔科入局

2003年 山梨大学にて漢方外来担当

2011年 健友堂クリニック 院長

2019年 日本東洋医学会奨励賞受賞

代表的著作は『有持桂里 方輿輓解説』たにぐち書店 月刊『漢方療法』に『校正方輿輓』解説講義を好評連載中

母校の漢方医学の授業にて長年教鞭をとる傍ら、学生の実地指導および医師、研修医の指導も行う

## 演題 1 妊娠後期における食欲不振と倦怠感が鍼灸治療で改善した 1 例

○保阪明宏 なごみうさぎ ～鍼灸・あろまてらび～

【緒言】妊娠後期においては増大した子宮底が多臓器を圧迫ししばしば心窩部痛や食欲不振などの消化器症状を呈することがあるが、入院を要することは稀である。今回妊娠 3 4 週より食欲不振と倦怠感で寝たきり状態となり入院をしたが精査で異常がなく、産科にて対応に苦慮し、鍼灸治療で全身状態が改善し、経陰分娩をし得た症例を報告する。

【症例】30 歳、1 妊 0 産、自然妊娠、身長 166 cm、体重 59.8 kg（現病歴）妊娠初期に悪阻で入院加療し退院後も自宅で寝たきりに近い生活を送っていた。妊娠 3 4 週に強い倦怠感と増大する子宮による圧迫感を主訴に、家族と本人の強い希望で入院精査することになった。入院中採血及び超音波検査などを実施したが、異常所見を認めず、長期臥床に伴う廃用性症候群が指摘された。長期臥床に至るような身体的問題を認められず、精神科医師及び臨床心理士の介入が行われたが症状の改善はしなかった。（所見）立位、仰臥位にて圧迫感、呼吸苦、食欲不振、吐き気、胸焼け 脈：浮、数、実、滑。腸腰筋の攣縮により腰椎前弯増強。

【経過】退院が見込めないため、妊娠 37 週に鍼灸治療を実施した。右解谿にセイリン鍼寸 3・2 番鍼にて接触鍼、セイリン寸 3・0.1 番鍼にて左衝陽、右太衝 10 分間の捻鍼術を実施した。1 回目鍼灸治療後、悪心嘔吐、仰臥位での呼吸苦、胸焼け、腹部全体の硬さが速やかに改善し、産科的内診では同日の朝より児頭が鍼灸治療前より下降していた。5 日後の再診時には就寝の軽度呼吸苦が残存するのみであり、初診時と同様の施術を行った。

【考察】妊娠悪阻により長期入院にて食事がとれず気血両虚に傾き、また妊娠経過に伴い生理的な肝血虚、陰虚にさらに傾いたことで栄養不足が生じ、粗大筋を滋養出来ないことが筋の柔軟性欠如を起し胎児の位置以上が起こる。肝血虚が肝陽上亢にうつり変わり、肝の疏泄が失調し横逆したことで胃気が和降出来ず肝胃不和が生じた。解谿穴の清降胃火、驅邪散滯、衝陽穴の降陽胃熱を標治とし太衝穴の疎肝理氣、養肝血を本治とした穴性を利用したことで筋肉が緩み消化器官の蠕動運動が亢進し症状が改善したと考えられる。

【結語】産婦人科での身体的異常所見がなく、うつが疑われ精神科にて投薬と心理療法を行ったが効果がなく対応に苦慮したが鍼灸治療で改善した 1 例を報告した。

## 演題 2 繰り返す血尿と脳梗塞後遺症の認知症による周辺症状（BPSD）に加味帰脾湯が効果的だった症例

○賀村 仁美<sup>1)</sup>、三井 梓<sup>1)</sup>、渡邊 善一郎<sup>2)</sup>、中田 薫<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>北杜市立国民健康保険見診診療所 <sup>2)</sup>福笑会 富士ニコニコクリニック <sup>3)</sup>中田医院 中国医学研究所

【緒言】加味帰脾湯によって繰り返す血尿と脳梗塞後の BPSD に効果がみられたので報告する。

【症例】88 歳男性 【主訴】血尿・BPSD 【既往歴】多発性脳梗塞 TIA 脳幹梗塞 高血圧 認知症

【現病歴】歩行困難により訪問診療を開始する 3 ヶ月前から時々尿パットに淡い色の尿がみられていた。訪問診療開始後、痛みのない血尿出現、その 1 ヶ月後には 4 回目の脳梗塞で入院。帰宅願望が強く、構語障害、左片麻痺、バルーン留置状態で 2 週間後に帰宅となった。帰宅後、食欲低下や水様便、軟便があった。食欲回復に伴い、大声や介護抵抗などの BPSD の陽性症状が悪化、繰り返す血尿と浮遊物が多くなり、バルーン交換も頻回になった。

【東洋医学的所見】脈：洪で沈弱。舌：左歪斜 絳紫舌。四肢：左上下肢麻痺 筋痙縮傾向

【医学的弁証】脾不統血、肝陽上亢と考え、加味帰脾湯を投与とした。【経過】内服 4 日目には透明な尿となり、BPSD の症状も緩和された。

【考察】『丹溪心法』に「尿血、痛むものは淋であり、痛まないものは尿血である」と記され、本症例の尿血は「脾不統血」の存在が、後遺症の状態から「肝陽上亢」も併存していると考えた。脾不統血に用いる帰脾湯に、疏肝理氣の柴胡と清熱の山梔子を加えた加味帰脾湯を選択したことで症状が軽快した。また、少量の投与であっても補氣作用が高い方剤に関しては BPSD の陽性症状悪化の原因になり得るため、病態回復後の長期にわたる投与は検討が必要だと思われる。今回のように在宅で療養をするためには介護をする者の精神的、肉体的ストレスの負担を軽減することが重要であり、自宅で過ごせる環境づくりに漢方薬が役立つと考える。

### 演題3 虫垂癌化学療法後の嘔気、ホットフラッシュ等に抑肝散合六君子湯が著効した1症例

○縄田昌子<sup>1)</sup>、塚本路子<sup>1)</sup>、鶴田統子<sup>2)</sup>、中田薫<sup>3)</sup>、土地邦彦<sup>4)</sup>

山梨県立中央病院 女性専門科 1)、甲府共立病院 産婦人科 2)、中田医院中国医学研究所 3)、玉穂ふれあい診療所 4)

【緒言】近年がん薬物療法は目覚ましく進歩し、進行がんに対し高い効果が期待できる。一方で、副作用のために薬物療法を中止せざるを得ない症例も見受けられる。今回虫垂癌 stageIVで化学療法を施行するもその副作用によって休止し、全身状態悪化のため入院を要した症例に漢方治療を行い、化学療法の継続が可能となった症例を経験したので報告する。

【症例】33歳女性。家族歴：母乳癌 虫垂癌および転移巣に対して、両側卵巣切除を含む手術療法を施行した。術後1ヶ月目 X 日より初回化学療法を開始したが X+1 日より嘔気、食欲不振、倦怠感、ふらつきが出現し X+3 日目に中止した。X+21 日目 2クール目を再開した直後より初回の副作用に加え、手足の脱力感、動悸、呼吸困難感、歩行困難などで自宅療養が困難となり入院した。入院中に不安やホットフラッシュの症状が悪化し X+31 日目に当科紹介となった。

所見：BMI 18.3、脈候は浮沈中間、細、虚、舌候は紅色で軽度の歯痕を認めた。無苔で舌下静脈怒張なし。腹候は腹力やや虚～中程度で右側優位の胸脇苦満、両側腹直筋攣急あり、心下悸、臍上悸を顕著に認めた。経過：抑肝散 5g/日と六君子湯 5g/日を処方した。服用直後から身体が温まり気持ち楽になり、翌日に手の脱力感が消失、3日後に嘔気消失し食欲が戻った。X+35 日の再診時に胸脇苦満は消失、腹直筋攣急、心下悸、臍上悸も減弱し X+36 日に退院した。

【考察】本症例は天涯孤独で祖母以外身寄りのない孤独な状況、術後の不安などで、病前より肝鬱の強い状況にあり、周術期の気血消耗、抗癌剤による気血両虚から、陰分による制御を失った肝陽が上亢したと考える。抑肝散（平肝熄風・疏肝健脾）に六君子湯を併用することで速やかな症状の改善および健脾作用が強まったと考えられる。

【結語】化学療法は西洋医学的にも副作用軽減の対応が検討されているが、患者のバックグラウンドや診察所見に応じた漢方治療を組み合わせることで、治療継続が可能となった。

### 演題4 単コードツボ探索器

○渡邊 裕 所属：廣瀬醫院

ツボの検索法は幾つかあるが、中谷義雄氏によって発見された「ツボの部分で皮膚の電気抵抗が低い」ことを利用する方法はサーチメーターの原理として広く行われている。通常陽極を手で握り、陰極を探索子として電気抵抗の低い点を探す方法が採用されているが、2本のコードを要するため取り扱いが不便で、ツボの位置も正確に決定し難いという難点がある。

演者の考案した方法は、外径 2 mm前後の銅円柱の中央に 0.5mm 程の孔を開け、その中を絶縁銅線（所謂エナメル線）を通し、両者を接着剤で固定して、前者を陽極・後者を陰極として既存のサーチメーターに接続して使用するものである。この場合、陰極と陽極の距離は限りなく 0 に近い程近接しており、同一のツボに同時に当たることが期待できる。また中心の陰極がツボに当たらない限り通電しないので、通電が確認されればその中心はツボであると判断できる。

本法は次の様な長所を有する。

1. 陰陽両極が電気抵抗の低いツボに同時に当たっているため検出能力が高い。
2. バリオームの調節が不要で、ツボの位置を極めて正確に探すことができる。
3. コードが邪魔にならず、使用が簡便である。

本装置は第 3217383 号をもって実用新案に登録された

## 演題 5 四順丸の作製と皮膚疾患に対する効果

○杉野二三<sub>1)</sub> 座光寺翔<sub>1)</sub> 浦野真理子<sub>1)</sub> 兼田和子<sub>1)</sub> 藤巻徹郎<sub>1)</sub> 菅原健<sub>2)</sub>  
アトム薬局大里店<sub>1)</sub> 健友堂クリニック<sub>2)</sub>

【はじめに】難治性の肺疾患に対し、漢方エキス製剤や抗生剤では効果不十分であった為、当薬局に肺癰を主治とする四順散（外科正宗）の蜜丸（以下、四順丸とする）を作製して欲しいと依頼があった。肺癰治療の有効性については昨年関東甲信越支部総会で報告した。今回、四順丸が幼少期からの重度の皮膚疾患に対しても有効であったため、その作製と効果について報告する。

【作製方法】構成生薬は、紫苑・貝母・桔梗・甘草・杏仁である。

紫苑・貝母・桔梗は1g/日、甘草・杏仁は0.5g/日として作製する。

①原料となる生薬を計量し、粉碎・篩過したものをよく混和する。

②それとは別に蜂蜜を火にかけ、蜂蜜に含まれる水分を飛ばす。

③末にして全て合わせた①の生薬に、②の蜂蜜を加え、よく練り込み、10日分毎に予備球（約直径5cm）を作製し、製丸機で直径7mmの丸薬にする。

【症例】11歳 女性 幼少期よりアトピー性皮膚炎と診断され抗ヒスタミン剤、ステロイドの内服及び軟膏などで加療していた。当薬局初診時、全身の皮膚はどす黒く乾燥し痒みを伴う状態で、医師から全身火傷状態と言われていた。四順丸をベースに、半年の経過で、皮膚の色は白くなり、正常な皮膚の状態へ改善した。

【考察】四順散は、『外科正宗』に「肺癰、膿を吐し、五心煩熱、壅悶、咳嗽するを治す」とある。主治は肺癰だが、五心煩熱とある様に全身的な炎症に対する効果も期待される。

また、蜜丸にすることで腸に長く停滞し徐放性が高まることが予想される為、構成生薬の去痰作用も相まって、直接的に腸内環境を改善し、重度の皮膚疾患にも効果があったのではないかと考えられた。

四順丸の作製は労力を要するが、飲み易く、徐放性が高まることで生薬の特性を生かし、幼少期からの難治性皮膚疾患治療にも有効であると考えられた。

## 演題 6 夜間せき込み嘔吐を伴う急性の咳嗽に二陳湯合平胃散が効果的であった一例

○鶴田統子 甲府共立病院産婦人科

【緒言】

急性の咳嗽は外感病や、肺の病証として考える場合麻黄、杏仁などが用いられることが多い。今回、夜間のせき込み嘔吐を伴う咳嗽に二陳湯合平胃散（平陳湯）を用いて2日で症状の改善を得た症例を経験したので報告する。

【症例】7歳女児 喘息既往歴あり、現在は年に2.3回咳嗽などがある時のみアドエア吸入200 $\mu$ g/day モンテルカストチエアブル5mg/日、カルボシステイン500mg/日を使用していた。5日前から鼻汁と、軽い咳嗽が出現したため上記処方薬を開始した。X-2日の日中も軽度の咳嗽が継続し、夕食後4時間以上経過し、入眠後に激しい咳嗽とともに未消化物を嘔吐し、2日間続いた。いずれも嘔吐後に症状は改善した。脈：やや浮、数、平 舌：湿潤、微白苔 腹：軽い心下痞硬のみ。X日朝より二陳湯および平胃散エキス顆粒各2.5g/日で内服開始したところ、夜間咳嗽は見られたが嘔吐に至らず睡眠を継続できた。X+1日目は咳嗽も出現せず、そのまま症状は改善した。

【考察】本症例では明らかな感冒は先行しておらず、冷飲食やプール、冷房などの生活背景が原因となり脾の運化作用が低下したことが主な原因と考えられた。嘔吐後に咳嗽が軽減することも根拠に、痰湿阻肺証であると判断し、平胃散で脾の機能を立て直すと同時に二陳湯を用いて痰飲の治療を行うことで症状が速やかに改善した。

【結語】本症例は咳嗽が主訴であったが、それまで自覚がなかった心窩部不快感にも効果的であった。小児においては、自覚症状の言語化が困難であり、随伴症状を客観的に把握することに加え季節、食事内容なども踏まえて治療することが必要である。



## 演題7 顔面神経麻痺に対し温経湯が有効と考えられた症例

○浅野伸将 山梨大学麻酔科

症例 63歳女性

現病歴 2016年9月左顔面神経麻痺を発症。

1985年、2009年に左顔面神経麻痺、2015年に右顔面神経麻痺を発症し星状神経節ブロックを行っていた。

2015年に発症した右顔面神経麻痺も完治していなかったが、左顔面神経麻痺の症状が強かったためこれまでの治療と同様、週に一回左の星状神経節ブロックを行った。風邪をひいた後から調子が悪くなったということ、胸脇苦満があり、口が渴くことから小柴胡湯を3週間内服した。胸脇苦満は改善したが、手掌のほてり、口喝は改善しなかった。足が冷え、顔が赤いことから上熱下寒と考えた。以上より温経湯内服を開始した。左の星状神経節ブロックと漢方内服で、発症から約半年で左右の顔面神経麻痺症状が完治した。

考察

温経湯は金匱要略に「婦人五十ばかり下痢を病みて数十日止まず。暮れにすなわち発熱し小腹裏急し腹満し手掌煩熱し口唇乾燥するは何ぞや。師の曰くこの病帯下に属す。何をもっての故ぞ。かつて半産を経て瘀血小腹に在りて去らず。何をもってこれを知る。その症口唇乾燥す。故にこれを知る。まさに温経湯をもってこれを主るべし。」とある。瘀血や帯下があり、手掌煩熱、口唇乾燥を認めるとき温経湯の効果があること考える。

反復性顔面神経麻痺の原因の多くは、ウイルス感染が原因である。ウイルスは顔面神経の神経節に潜伏し、後に再活性化することで神経炎が生じ、腫脹した神経が自己絞扼を生じ顔面神経麻痺を発症する。

温経湯に抗ウイルス作用を示す報告はないが、麦門冬や人参を含み阿膠と協調して粘膜を潤す作用があること、牡丹皮に抗炎症作用があることから免疫機能低下を防ぐ機構に役立っているのかもしれない。

手掌煩熱、口唇乾燥、上熱下寒を目標に温経湯を使用した。反復する顔面神経麻痺の症状改善に温経湯が効いたと考えられる症例を経験した。

## 演題8 補中益気湯の使用例

○宗岡雅子 あきる台病院

補剤の効果はわかりにくいものであるが、今回入院患者に用いて明らかによかったと思われる症例に考察を加えて報告する。

【症例1】 80代女性 顕微鏡的多発血管炎でプレドニン10mg内服中

X年2月に肺炎で総合病院入院後、肺炎は軽快したが食欲不振続き、3月当院に転院

口が苦く、食欲はあるが食事を前にすると食べられないという症状が続いており、点滴を実施していた。4月末に補中益気湯(TJ41)5g 2×で処方、拒否なく内服でき5月上旬より徐々に食量が増え、7月老健施設に退院した。

【症例2】 70代男性 糖尿病性壊疽、下肢切断後、多発褥瘡

X-1年夏より下腿壊疽出現していた。

X年4月初旬より倦怠感出現し、肺炎で総合病院に入院、仙骨、臀部、腸骨に褥瘡あり、下腿壊疽は感染のため切断5月中旬当院転院

6月初旬下腿断端が発赤し、膿排出、蜂窩織炎の疑いで抗生剤内服開始、感染した残糸2本抜糸する。

6月中旬 切断肢の感染コントロールおよび治癒促進目的で補中益気湯(TJ41)7.5g 3×で処方。その後も下肢の感染は一進一退しているが、仙骨、臀部、腸骨の褥瘡は急速に治癒が促進し、7月末にはほぼ上皮化した。

【考察】 補中益気湯は李東垣『内外傷弁惑論』『脾胃論』が出典で四君子湯を原方とした補気剤である。浅田宗伯『勿誤薬室方函口訣』に津田玄仙の8つの使用目標として、手足倦怠、言語軽微、眼勢無力、口中生白沫、食失味、口好熱湯、当臍有動気、脈散大無力があげられており、このうち1~2の症状があれば使用してよいとある。

当院は地域包括ケア病棟で、半数ほどは急性期を過ぎて回復期の患者である。口訣の該当者は非常に多い。今後、積極的に取り入れていくことで、回復促進に役立てることができればと考える。

## 演題9 鹿茸・紅参配合剤の服用により、腎機能が急速に改善した1症例

○輿水秀之 臨床漢方薬局ナオル薬品

**【症例呈示】** 症例:68歳 男性 主訴:脂質代謝異常・慢性腎臓病(CKD)の疑い、痛風・高血圧症加療中。 現病歴:痛風・高血圧症などにより通院中であつたが、直近の健康診断にてクレアチニン・血糖値・コレステロールの高値を指摘され来局。臨床検査値の示す健康上のリスク、食事指導などの説明を行った後、紅麴配合食品及び鹿茸・紅参配合剤(救心製薬製)を服用開始。 臨床経過:服用開始2ヵ月を経過した後の血液検査で LDL 正常化。クレアチニン 1.25mg/dL→1.11mg/dL eGFR 45.3ml/min→51.6ml/min と改善した。その後、継続服用中であるが、特段の副作用と思われるような症状は発生していない。

**【考察】** 鹿茸はマンシュウアカジカあるいはマンシュウジカのまだ骨質化していない幼角で、副交感神経末梢部の緊張亢進、神経・筋系の機能促進、心機能の正常状態への回復促進、消化器系の機能促進、腎の利尿機能促進、疲労回復、性機能の回復促進、創傷治癒促進、摘出腸管と子宮の興奮、抗体産生増強、免疫複合体除去能の促進、補体の活性化、老化改善などの薬理作用を有することが報告されている。近年、慢性腎臓病(CKD)の重症化予防対策に行政からも様々な施策が打ち出されているが、腎機能の改善(透析の回避・開始時期の延長)を期待して、漢方薬の服用を希望する患者も少なくない。

**【結語】** 慢性腎臓病(CKD)の疑いの68歳の男性に対して、鹿茸・紅参配合剤を投与したところ、服用開始2ヶ月に臨床検査値(クレアチニン・eGFR)が改善した。慢性腎臓病(CKD)の重症化予防対策としても鹿茸・紅参配合剤の服用が考慮されても良いと考える。

## 演題10 術直後よりの全身の強い冷えに柴胡桂枝乾姜湯が著効した1症例

○渡邊 善一郎 福笑会 富士ニコニコクリニック

症例 47歳女性 主訴:全身の強い冷え

現病歴:2年前の脳幹部髄膜腫 2/3 摘出術直後より、全身に冷えを感じるようになった。夏は大丈夫であるが、冬はストーブ前で全身厚着のエスキモー状態となり、寒いのでコタツで寝る生活であつた。脳外科に相談したが、残りの腫瘍は関係ないと言われて当院を受診。

西洋医学:身長 160cm 体重 72kg 体温 36.8℃ 食事 3回、大便 2日 1回正、小水 4回夜間なし、ストレスなし、肩コリで上肢ジンジンしていた。

東洋医学:脈弱、舌淡紅で口中は温かい、腹診では胸脇苦満なし、胃脘部圧痛を認めた。冷えは全身に認めるが、背中上部・手足の背側に強く感じていた。入浴時の温度は家族 40℃、本人 44℃でも平気で、入浴中も寒くて身体が温まらない。無汗。他覚的に皮膚は温かい。手の触覚は正常で熱さを感じる。

弁証:冷えの原因は陽虚より気血の不巡と考え、

処方:膈不通(特に前後)を改善させる柴胡桂枝乾姜湯を選択した。

経過:寒熱の存在が確定できなかったので、白虎加人参湯 or 附子理中湯の試飲を行い、清熱の白虎加人参湯では寒くはならず、温薬の附子理中湯ではやや温かくなった程度あり、寒熱には問題ないと考えた。服用2日目より著効し、エスキモー状態から脱出でき、冷えなし、コタツ寝なし、仕事でも上着を脱いで半袖でいられ、入浴も家族と同じ温度で大丈夫になった。気水も巡り、一過性に排尿回数が4回から7回に増え、発汗を認めるようになった。現在も冷えはなく、通常の生活が暮らせるようになった。

考察:冷えの原因は熱源のボイラー(陽虚)故障や熱を循環する配管の停滞(気滞)が考えられる。柴胡桂枝乾姜湯により短期間で著効したことは、気(滞)の問題であつたと考える。経方理論では柴胡桂枝乾姜湯の牡蛎・栝楼根は膈の前後を疎通させると考えている。今回の症例は冷えを背中側に強く感じていたので、衛気の出行が後通路で阻止されたためと考えた。

## 演題 11 鼻炎本治途中に六味丸投与で便秘が改善した1例

---

○中田 薫(なかだ かおる)<sup>1)</sup> 2) 鶴田 統子<sup>2)</sup> 賀村 仁美<sup>3)</sup> 縄田 昌子<sup>4)</sup> 塚本 路子<sup>4)</sup>

中田医院 中国医学研究所<sup>1)</sup> 甲府共立病院<sup>2)</sup> 北杜市立国民健康保険辺見診療所<sup>3)</sup> 山梨県立中央病院女性専門<sup>4)</sup>

[諸言]中田薫らは第68回日本東洋医学会学術総会で患者に「鼻炎を元から治すぞ」と言って治した26例は、補気剤35%、補腎剤30%、理気剤15%、理血剤15%、その他5%で改善したと報告している。鼻炎本治目的で、六味丸を投与し、本治以前に便秘が改善した症例を紹介する。

[症例] 6歳男。身長大きい、体重23.3kg。西瓜を食べると手がかぶれる(食物アレルギー)。春と秋に目の痒みが強いアレルギー性鼻炎。便秘治療のため小児科で酸化マグネシウム投薬を続けている。既往歴無。五遅(成長、骨、歯、言葉、歩行)無、骨折歴無。X-1年10月6日初診。六味丸2g分2投与。同13日排便があるので酸化マグネシウムを中止。その後六味丸のみで排便がある。患者が六味丸をあまり飲みたくないで2g分2で投与するが毎日1回排便がある。X-1年秋とX年春のアレルギー性鼻炎は本治出来なかった。

[考察] 本症例は滋陰補腎・瀉火の六味丸エキスで、(熱型)アレルギー性鼻炎本治の経過中に便秘の症状が改善した。腎陰を補う事で陰虚体質が改善され始め、その結果便秘が先に改善されたが、水滞の偏在までは改善されていないので鼻炎は本治しなかったと考えられる。演者は、6歳児ならエキス剤2包分2程度を投与するが、この症例は1包分2しか内服していないので本治に時間がかかっていると考え。子供が漢方薬を内服しないのは母親が服薬させないことが多いと思われる。

[結論]アレルギー性鼻炎本治に伴い他の症状も改善する可能性が十分ある。



# 地道藥材



東洋藥行 輸入漢方エキス製剤

医療用40処方  
健保適用

〔東洋〕  
桂麻各半湯  
エキス細粒

〔東洋〕  
啓脾湯  
エキス細粒

〔東洋〕  
桂枝加厚朴杏仁湯  
エキス細粒

〔東洋〕  
桂枝加葛根湯  
エキス細粒

〔東洋〕  
桂枝加黃耆湯  
エキス細粒

〔東洋〕  
黃耆建中湯  
エキス細粒

製造販売

株式会社 東洋藥行

〒113-0033

東京都文京区本郷6-19-7

TEL03(3813)2263

FAX03(3813)0202

勝昌製藥廠股份有限公司  
台灣省桃園縣中壢市民族路六段436号

明通化学製藥股份有限公司  
台灣省台中市復興路二段120号

中国・吉林省  
**長白山天池**



漢方製剤

ジユンコウ  
 ほ ちゅう えっ き とう  
**FC41T 補中益気湯**

薬価基準収載

FCエキス錠 医療用

●効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については製品添付文書をご覧ください。



人参栽培で有名な吉林省長白山。標高2744mの山脈で、北朝鮮と国境をなす。長白林海と呼ばれる原生林が広がる広大な自然保護区となっている。主峰の山頂には、世界で一番高い海拔に位置する『天池』と呼ばれる火山口湖がある。水深300mの湖面は青く鏡のように澄みわたり、訪れた人々を幻想の世界に誘う。



オースギ医療用漢方製剤

錠剤製品一覧

FC41T 補中益気湯

SG-01T 葛根湯	SG-16T 半夏厚朴湯
SG-05T 安中散料	SG-19T 小青竜湯
SG-07T 八味地黄丸料	SG-23T 当帰芍薬散料
SG-08T 大柴胡湯	SG-75T 四君子湯
SG-09T 小柴胡湯	SG-84T 大黄甘草湯
SG-15T 黄連解毒湯	SG-95T 五虎湯

漢方を現代医療に生かす

**オースギ**  
 大杉製薬株式会社  
<http://ohsugi-kanpo.co.jp>

資料請求先

営業本部 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 1-8-6 TEL(06)6629-9055(代)

(2016年5月制作)

漢方製剤  
薬価基準収載

# 小太郎漢方の カプセルシリーズ



商品番号 NC127

劇薬 340-  
ま おう ぶ し  
**麻黄附子**  
さい しん とう  
**細辛湯**  
エキスカプセル

〈包装〉  
コタロー麻黄附子細辛湯  
エキスカプセル  
PTP 100カプセル、  
300カプセル、  
600カプセル

商品番号 NC113

340-  
さん おう しゃ しん とう  
**三黄瀉心湯**  
エキスカプセル

〈包装〉  
コタロー三黄瀉心湯  
エキスカプセル  
PTP 300カプセル、  
600カプセル  
ポリ瓶 600カプセル

商品番号 NC135

340-  
いん ちん こう とう  
**茵陳蒿湯**  
エキスカプセル

〈包装〉  
コタロー茵陳蒿湯  
エキスカプセル  
PTP 300カプセル、  
600カプセル

商品番号 NC5

340-  
あん ちゅう さん  
**安中散**  
エキスカプセル


〈包装〉  
コタロー安中散  
エキスカプセル  
PTP 300カプセル、  
600カプセル

商品番号 NC15

340-  
おう れん げ どもく とう  
**黄連解毒湯**  
エキスカプセル

〈包装〉  
コタロー黄連解毒湯  
エキスカプセル  
PTP 300カプセル、  
600カプセル  
ポリ瓶 450カプセル

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

 **小太郎漢方製薬株式会社**

資料請求先 小太郎漢方製薬株式会社 医薬事業部  
〒531-0071 大阪市北区中津2丁目5番23号 TEL06(6371)9106 FAX06(6377)4140  
(9:00~17:30/土、日、祝日、弊社休日を除く)

(2010年4月制作)

twice or three times a day 選べるやさしさ

漢方製剤

ニンジン ヨウ エイトウ

薬価基準収載

クラシエ 人參養榮湯 エキス細粒

KB-108



EK-108



効能・効果

病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

用法・用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

組成・性状 本薬1日量(7.5g)中

日局ニンジン	3.0g	日局ジオウ	4.0g	日局ケイヒ	2.5g	日局オンジ	2.0g
日局トウキ	4.0g	日局ビャクジュツ	4.0g	日局オウギ	1.5g	日局ゴミシ	1.0g
日局シャクヤク	2.0g	日局ブクリョウ	4.0g	日局チンピ	2.0g	日局カンゾウ	1.0g

上記の混合生薬より抽出した人參養榮湯エキス粉末6,700mgを含有する。  
 添加物として日局ステアリン酸マグネシウム、日局軽質無水ケイ酸、日局結晶セルロース、含水二酸化ケイ素を含有する。  
 淡かっ色～かっ色の細粒で、特異なおいがあり、味はわずかに苦くて甘い。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 著しく胃腸の虚弱な患者〔食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。〕
- (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者〔これらの症状が悪化するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパシーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

(1) 重大な副作用

- 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

取扱い上の注意

- 貯法: 直射日光をさけ、吸湿注意。開封後は密栓保存。
- 使用期間: 3年(使用期限は外箱・ラベルに表示)

承認番号

(61AM) 3510

承認年月日

1986年6月24日

製造販売元

クラシエ製薬株式会社  
〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

包装

- KB-108: 3.75g×28包、3.75g×168包
- EK-108: 2.5g×42包、2.5g×294包、500g

薬価収載

2007年7月

販売開始

2007年7月

発売元

クラシエ薬品株式会社  
〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

クラシエ 薬品株式会社

※[資料請求先]

〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20  
 医薬学術部 Tel 03 (5446) 3352 Fax 03 (5446) 3371

医療用医薬品ウェブサイト「漢・方・優・美」 <http://www.kampoyubi.jp>